

第2回(通算第8回)八大学工学部長会議議事録

日 時 平成27年9月18日(金) 10:40～12:40

場 所 ホテルメトロポリタン仙台 3F 星雲

出席者 (北大)名和豊春工学部長、(東北大)滝澤博胤工学部長、(東大)光石衛工学部長、(東工大)岸本喜久雄工学部長、(名大)新美智秀工学部長、(京大・連合会会長)伊藤紳三郎工学部長、(阪大)田中敏宏工学部長、(阪大)河原源太基礎工学部長、(九大)高松洋工学部長

陪席者 (名大・工学研究科)田川智彦副研究科長/運営委員、(東大工学系・情報理工学系)後藤秀逸事務部長、松本勝宏総務係長、大八木さくら係員、(京大・桂地区・工学研究科)竹下基幸事務部長、八木清隆総務課長、谷川喜隆係長、(東北大・工学部)田屋修一事務部長、荒孝二総務課長、板垣毅教務課長、阿部秀浩経理課長、小松誠研究推進課長、武澤修施設管理室長、永沼ひろみ総務係長

事務局 石原直事務局長、枝丈雄事務局長補佐

注 記 工学部長会議の回数は、一般社団法人として第2回、連合会として通算第8回である。

議 題

1. 報告事項

- (1) 第1回八大学工学部長会議議事録確認
- (2) 平成27年度第1回、第2回運営委員会報告
- (3) 博士人材提言のフォローアップ活動報告
- (4) 各大学からの博士人材育成に関するGP報告
- (5) 第5回世界工学会議への参加・出展について
- (6) 日英国際交流について

2. 協議事項

- (1) 今後の達成度調査の進め方について
- (2) 平成27年度博士フォーラムの企画について
- (3) 平成27年度八大学工学系連合会からの提言について

3. その他

- (1) ロゴ、パンフレット、ホームページについて
- (2) 今後の予定について

配布資料

資料1 第1回(通算第7回)八大学工学部長会議議事録(案)

資料2 平成27年度第1回、第2回運営委員会議事録

資料3 博士人材提言のフォローアップ活動報告

資料4 各大学からの博士人材育成に関するGP報告

資料5 第5回世界工学会議への参加・出展について

資料6 日英交流についての報告

- 資料7 今後の達成度調査の進め方について
- 資料8 平成27年度博士フォーラムの企画について
- 資料9 平成27年度八大学工学系連合会からの提言について
- 資料10 一般社団法人八大学工学系連合会のロゴ、パンフ

議事要旨

開会の辞

定款施行細則第4条の4に則って八大学工学系連合会会長が議長となり、会議の開会に当って伊藤会長(京都大学工学部長)より挨拶があった。

会議日程及び資料確認

事務局より会議日程の説明、及び配布資料の確認が行われた。

出席者紹介

伊藤会長から出席者の紹介があり、今回より出席の阪大・田中工学部長より挨拶があった。

1. 報告事項

(1) 第7回八大学工学部長会議議事録確認(資料1)

資料1により、今春4月24日の第1回(通算第7回)八大学工学部長会議議事録(案)を確認した。

(2) 平成27年度第1回、第2回運営委員会報告(資料2-1, 2-2)

資料2-1, 2-2に基づいて、本年6月、8月に開催した平成27年度第1回、第2回運営委員会における、「提言フォローアップ」、「達成度調査の進め方」、「博士フォーラムの見直し」、「今年度の提言」に関する議事の要旨が記録されていることが報告された。今後の議論での参考としてもらう。

(3) 博士人材提言のフォローアップ活動の報告(資料3)

資料3に基づいて、前回4/24常設会議で承認された「博士人材育成に関する提言」について、その後のフォローアップの取り組みが報告された。5月13日の日本経団連・産業技術委員会・産学官連携推進部会との意見交換(別紙3)、同日午後の文部記者会でのプレスリリース(別紙1)、科学新聞への掲載記事(別紙2)、9月14日の研究産業・産業技術振興協会との意見交換会(別紙4)が報告された。伊藤会長より、有意義な議論が出来たこと、及び、協会からの提案もあって今後も継続的に対話の場を持っていきたい旨の報告があった。また、出席メンバーの滝澤先生から、研究開発に熱心な企業から博士人材への多くの要望や期待を聞くことが出来たとのコメントがあった。今後も事務局が窓口として連携をキープして行くこととした。

(4) 各大学からの博士人材育成に関するGP報告(資料4)

工学部長会議メール審議で賛同を得た「博士人材育成に関するGPの情報共有」について、資料4を用いて、各大学当たりの持ち時間4分でGP報告と質疑応答を行った。(各大学の報告内容は資料4-1~4-9参照。)

多様な項目(順不同):博士課程リーディングプログラム、キャリア開発の支援、博士学生の経済的支援、

英語教育、グローバルリーダー育成、イノベーションリーダー育成、学部・大学院一貫教育、大学院入試、企業との対話、父兄への情報提供、教育における産学連携、教育プログラム改革、学際領域・融合領域の開拓、などについて発表と質疑が行われ、今後の施策に活かしていくこととした。

また、午後の工学関連研究科長等会議への報告については、伊藤会長が全体をサーベイした後、東北大学から新しい博士人材育成・教育システムへの取り組み、東京大学からご父母のためのオープンキャンパスについて個別に報告を行うこととした。

(5) 第5回世界工学会議への参加・出展について(資料5)

来る11月30日から12月2日の3日間、京都国際会館で開催される「第5回世界工学会議(World Engineering Conference and Convention、通称WECC2015)」について、資料5に基づいて、伊藤会長より「会議の説明と参加の勧め」、事務局より「八大学からの出展」について説明が行われた。

まず、資料5は、「WECC2015の概要と基調講演」、「会議の概要」、「そもそも世界工学会議と何かと今回の日本開催の背景に関する説明」、「プログラムの全体構成」となっていること、工学部長会議のメンバーは既にWECC2015佐藤組織委員長(日本工学会会長)の訪問説明を受けていることが紹介された。この状況から午後の会議では、同じ資料を使って伊藤会長から参加の勧めを説明し、参加登録の場合には各工学部長、あるいは事務局に連絡頂きたいという説明にすることとした。

次に事務局より資料5に基づいて、WECC組織委員会から八大学への展示ブースのオファーについて、工学部長メール審議での賛同を得てWECC2015に出展を行うこと、展示会場と展示ブースのスペック、京大・大津先生、東工大・山田先生、事務局・石原で出展チームを作ること、展示コンテンツ作成・展示品集め、現地説明などについて説明が行われた。については、10月～11月をかけて行うこれらの準備への各大学への協力が要請された。

(6) 日英国際交流について(資料6)

東工大・岸本先生から、資料6を用いて、次週9月20日～23日に英国(Oxford)で開催予定の日英ワークショップ、および日英工学系ミーティングについて紹介があった。また、日英の連携に関するアグリーメントの形態について意見交換が行われ、八大学連合会で契約する案、「宣言」の形式もあるなどの議論があった。なお関連して、クイーンエリザベス工学賞”Young Ambassadors”の募集について紹介があった。

2. 協議事項

(1) 今後の達成度調査の進め方について(資料7)

今後の達成度調査の今後の進め方について、伊藤運営委員長より資料7を用いて運営委員会・達成度調査分科会での検討結果、「今年度は、達成度調査のプラットフォームは連合会が維持し、各大学にて達成度調査の必要性の判断に基づいて、自学の調査報告書作成費を負担する形で大学の実情に合わせた達成度調査の実施・必要性の吟味を進める。」と云う方針が提案された。これをもとに、

- ・ 達成度調査は学部と大学院を比較する意味で長期データが重要である。
- ・ 達成度調査の分析結果を「博士人材の評価」に活用して行きたい。
- ・ 分科会が年末までに行う予定の「達成度調査の結果の解析」に、この博士人材への適用展開も含

めてもらうと良い。

などの意見があった。以上より、今年度の達成度調査は、運営委員会提案の方針で進めることとした。

(2) 平成27年度博士フォーラムの企画について(資料8)

4/24 の工学部長会議で諮問された「博士フォーラムの抜本的に見直し」について、運営委員会(幹事校:阪大・基礎工、分科会主査:阪大・基礎工・田中運営委員)で行った検討結果が伊藤運営委員長より資料8を用いて説明された。見直しの考え方は、博士フォーラムを博士教育改革の手段と位置付け、従来の「博士学生の交流促進」から「教員が博士過程学生・若手研究員の博士教育に関する意見を聞く機会」に視点を移そうというものである。資料2 ページ目の具体的計画について意見交換の後、今年度はこの新しいやり方を試行することを決定した。これを受けて幹事校より、本年12月4日に阪大豊中キャンパスで実施する新しいフォーラムへの教員派遣の要請があった。また、来年度の幹事校は九州大学であることを確認した。

(3) 平成27年度八大学工学系連合会からの提言について (資料9)

前回常設会議で決めた今年度の提言テーマ「基礎研究力の強化」について、伊藤運営委員長より、資料9を用いて、運営委員会で検討経緯、提言作成における基本的な考え方、運営委員会の提言(素案)が説明され、質疑が行われた。主な意見は以下のとおり。

- ・ 研究力と教育力を別々でなく一体的に強化・促進するスタンスが良い。
- ・ 共同研究資金を教育にも使えるスキームを作って行きたい。
- ・ 産学連携のスキームにおいて、産業界からの教育プログラムへの参加は歓迎されるが、学位審査への参加は直ぐには難しいのではないかな。
- ・ 副査としての参加はすでに行われている例はある。
- ・ 若手研究者に、「自由に使える資金と時間」を確保することが「自由な発達の研究」の源泉であろう。大学の運営に「余裕を持たせること」を提言に盛り込みたい。
- ・ 「専任義務」が基礎研究推進の障害になっていないか。検証が必要では。
- ・ 若手教員の教育と研究への関わりの在り方をどこまでどの様に盛り込むか。検討を要する。
- ・ 「若手教員・研究者(例えば40歳以下)の研究費」、「研究室の状況」などの調査を行ない、大学における研究現場の典型例を提示してはどうか。
- ・ 「選択と集中」の否定は中々難しい面もあるので、注意深く。
- ・ せっかくなので、八大学でまとまっているイメージを出したい。
- ・ 「在外研究員」は若手育成に友好だったが制度がなくなった。復活すべき。
- ・ 某専攻で在外研究を奨励したら教員がいなくなってしまうという例もあるので注意。
- ・ 専攻に経費を配分することで専攻が戦略的サバティカルを実施するシステムを開始した。
- ・ 若手で言えば、助教のアクティビティが下がっている。(昔の助手のよう)
- ・ 特任研究員はそのミッションからして自由な研究はやれないしやらない。検討を要する。
- ・ 春の博士人材育成の提言先は主に産業界。今度は国民・政府・産業のどこに向けて行う？
- ・ 文科省向けの場合、フォローアップは難しいかな。
- ・ 科学技術政策におけるファンディングのやり方に基礎研究強化を訴えるのも手では。

- ・ 今回の基礎研究強化の提言は政府＋産業界ではないか。
- ・ 企業の教育への参加を文科省に言って行きたい。既にそうしている。
- ・ 外部・政府からは「大学でできることは大学でやれ」ということになることに留意。
- ・ 大学本部を動かすための学内向けの提言の意味もある。
- ・ 工学系が先陣を切って教育改革を進めるという位置付け方もある。

以上の意見を参考にしながら、この秋から来春に向けて運営委員会で具体的な提言の作成作業を進めるので、折に触れての工学部長からのコメントをもらいたい旨が要請された。

3. その他

- (1) 資料10に基づいて事務局より、一般社団法人八大学工学系連合会のロゴ、および一般社団法人八大学工学系連合会の紹介パンフレットの紹介があった。
- (2) 次回の常設会議について、幹事校の光石東京大学大学院工学系研究科長より、来春の常設会議は平成28年4月22日(金)にKKRホテル東京で開催予定とのアナウンスがあった。
- (3) 次々回の常設会議について、幹事校の名和北海道大学工学研究院長より、来年秋の常設会議の予定は午後の会議にてアナウンスするとの報告があった。

以上をもって第2回八大学工学部長会議を終了することを伊藤会長が宣言した。事務局長より、午後1時30分より臨時社員総会、13時40分より八大学工学関連研究科長等会議が開催される旨の案内があった。

以上